

## 京都市台北情報拠点レポート(2019年4月・5月分)

### 1 統計

○訪日旅行者数(台湾)

・2019年4月 403,500人(2018年4月 470,042人)(伸率 -14.2%)

・2019年5月 426,500人(2018年5月 440,109人)(伸率 -3.1%)

※出典「日本政府観光局(JNTO)」

○京都市内ホテル対象宿泊延べ人数(台湾)

・2019年4月 17,899人(2018年4月 23,921人)(伸率 -25.2%)

対象施設数:56ホテル

・2019年5月 15,777人(2018年5月 19,882人)(伸率 -20.6%)

対象施設数:57ホテル

※出典「京都市観光協会データ月報」

### 2 市場動向

#### 〔観光市場全体動向〕

台湾観光局が発表した台湾出国人数によると、4月は昨年同期より5.91%減少、合計1,415,406人となった。原因としては、今年台湾の清明節休暇は去年の5連休から4連休となり、また、台湾政府が打ち出し、4月より適用された国内宿泊助成プランといった国内観光促進政策が効果を出した等が考えられる。

台湾国内ホテル市場に関しては、高雄餐旅大学副学長劉喜臨は、近年、中国人観光客が激減したため、3つ星ホテルの使用率も減少。しかし、トップレベルホテルとユースホステル等は好調。そのため、訪台観光客及び台湾人の宿泊傾向が見られると指摘した。

一方、海外旅行市場においては、台湾旅行業品質保障協会が発表した7月から9月の団体旅行商品の価格によると、今年の夏は海外旅行に大幅な値上げがあることがわかった。台湾人海外旅行先TOP.1の日本は、2020東京オリンピックと円高のため、全体消費が高まり、東南アジアもホテル、チケット、交通費の高騰に連れ、昨年同期より約NT\$1,500の値上げとなる。値上がり幅が最も著しいのは、アメリカ・カナダ線で、平均的に約NT\$5,000からNT\$18,000の値上げとなっている。

#### 〔訪日市場動向〕

JNTOのデータによると、4月の訪日外客数は昨年同月比0.9増の292万7千人で、単月として過去最高を記録した。市場別から見ると、タイ、フィリピン、ベトナム、インド、カナダ、英国、フランス、イタリア、ロシアで単月として過去最高を記録し、中国、豪州、米国、ドイツ、スペインで4月として過去最高を記録した。

一方、台湾観光局のデータによると、4月の訪日人数は昨年より15.92%減少の393,873人とな

り、原因としては、清明節連休の減少と台湾政府の国内観光推進政策のほか、日本ゴールデンウィークによる観光消費の高騰も考えられる。

それにもかかわらず、日本は相変わらず台湾人海外旅行先 TOP.1 の国であり、地方への新規就航や増便、チャーター便の運航により航空座席供給量も増加し続けている。例えば、ファーイースタン航空は、昨年5月より開始した「桃園-福島」定期チャーター便の搭乗率が90%余りに達したという成績を残しており、更に、福島県の観光発展を見込んで、今年4月より引き続き、週2便(木・日)の「桃園-福島」チャーター便を運行。また、エバー航空は地方都市への需要を狙い、6月より名古屋・青森・松山路線に就航する予定。

台湾で最も人気があるプリンセスクルーズは、初めて複数の旅行会社と連携し、花見旅行を打ち出す。プリンセスクルーズは9日にライオントラベルを始め、五福、鳳凰、燦星などの台湾の旅行会社11社と提携し、来年3月の日韓お花見チャータークルーズを就航する予定。来年の日韓お花見クルーズ旅行を打ち出す11社の旅行会社は、百威、世邦、五福、行家、東南、ライオントラベル、鳳凰、燦星、喜鴻、Eztravelと大興である。また、プリンセスクルーズは来年台湾で母港を立ち上げる計画を発表した。運行期間は来年の3月から8月までの半年間となる。

### 〔訪日台湾旅客数推移〕

訪日台湾旅客数推移		
	JNTO 数値	台湾交通部観光局数値
	成長率(%)	成長率(%)
2019年3月	402,400	400,008
	3.9	1.58
2019年4月	403,500	468,435
	-14.2	-15.92
JNTO: Japan National Tourism Organization		
交通部観光局: Tourism Bureau, M.O.T.C. Republic of China		

### 〔関空の定期便の動向〕

関空定期便利用状況 出国入国状況合計				2019年3月	
路線	航空会社	便数(回)	座席総数(席)	利用者数(人)	席利用率(%)
大阪	チャイナ	364	96,470	81,746	84.7
	エバー	310	72,816	64,802	89.0
	キャセイ	62	21,758	17,920	82.4
	ジェットスター・アジア	98	17,640	16,065	91.1
	フィリピン	62	12,338	9,811	79.5
	タイガーエア台湾	149	26,820	23,957	89.3
	JAL	122	21,288	18,154	85.3
	ピーチ	186	33,480	31,611	94.4

	エアアジア X	34	12,818	11,157	87.0
	バニラエア	62	11,160	9,769	87.5
	スクート・タイガーエア	34	11,560	9,923	85.8
	チャイナ	364	96,470	81,746	84.7
	<b>合計</b>	<b>1,483</b>	<b>338,148</b>	<b>294,915</b>	<b>87.2</b>
<b>関空定期便利用状況 出国入国状況合計 2019年4月</b>					
<b>路線</b>	<b>航空会社</b>	<b>便数(回)</b>	<b>座席総数(席)</b>	<b>利用者数(人)</b>	<b>席利用率(%)</b>
<b>大阪</b>	チャイナ	350	92,196	77,249	83.8
	エバー	300	69,776	61,885	88.7
	キャセイ	60	19,300	16,038	83.1
	ジェットスター・アジア	98	17,640	15,686	88.9
	フィリピン	24	4,776	3,719	77.9
	タイガーエア台湾	166	29,880	24,360	81.5
	JAL	60	8,640	7,500	86.8
	ピーチ	190	34,200	30,023	87.8
	エアアジア X	35	13,195	9,656	73.2
	バニラエア	60	10,800	8,900	82.4
	スクート・タイガーエア	36	12,240	8,980	73.4
	チャイナ	350	92,196	77,249	83.8
	<b>合計</b>	<b>1,379</b>	<b>312,643</b>	<b>263,996</b>	<b>84.4</b>